町立図書館おすすめＢＯＯＫ

新刊紹介

図書館に置いてある最新本の中から
おすすめのものをピックアップ。
バラエティーに富んだ
新刊を紹介します。

町立指江図書館 / 電話 0996(88)6500

こども古典落語 あっぱれ！わんぱく編

小島 貞二 文・宮本 忠夫 画

いまという時代こそ、笑いが必要です。古典落語に親しむことによって、笑いを楽しんでください。

図書館ねこデューイ

ヴィッキー・マイロン 著

ある冬の朝、アメリカの小さな町の図書館で、返却ボックスから子ねこが救出されました。子ねこは町の人々を癒し、やがて世界中に知られる「図書館ねこ」となっていきます。一生をともに過ごした司書が愛情を込めて書いています。

町立鷹巣図書館 / 電話 0996(86)1111

長島文芸

明神俳句会

島泊り沖にころがる春の雷　淵脇　護
癌を捨て一年の過ぎ梅の頃　大堂　早苗
重き荷の牛を励ます頬被り　二階堂妙子
ぐずる子のすとんと眠る梅の花　山嵜加代子
地図帳に旅程なぞりぬ春はそこ　迫口　君代
朝市のリヤカー族や頬被り　関　佳代美
祈願子や梅の天神鈴鳴らす　筑前　初市

長島短歌会

蕗の薹雪のとけるを待つといふ島の畑にただに芽吹ける　林　ヒロ
飛行雲と見紛ふまでに幾千の鶴列なして海渡り来る　本田　幸子
春めぐり黄砂飛来の季となりて天草島も霞みて見ゆる　町田キクエ
息子らに支へられつつ支へつついつしか吾も還暦すぎたり　松元　睦子
駆け寄りて我に纏わりかぎまわる何求むるや友の愛犬　吉田　映子
さわやかな春日の今朝の読経きく亡夫の百ケ日めぐり来たれば　岩下　ち江
長生きを自負する吾の愚かさの頷かれくる生かされる身に　岩下　房代
事故に逝きし子なきわれらの飼い猫の冷ゆる骸を夫は撫でつづく　樫平　頼子
四十年の時過ぎて立つ大都会阿るわれに寒風荒ぶ　米尾　和子
姪呉し里の石蓴を食しつつ幼少の日の浜辺を偲ぶ　中山タマエ
新しき菜花と若布湯掻きをり供する客を思ふ厨に　浜田美代子
夕日差しとどくあたりの沈丁花少しふるれば少し匂へる　浜畑　松枝
友と来し冠岳の大岩は幾世経たるや黙ししままに　市尾　操
暖かな冬陽差し込む部屋に来て友とはじめての歌会にあふ　火ノ浦ゆかり

創生短歌会

老いて死にし矮鶏の亡骸天草の見ゆる浜辺の砂掘りて埋む　竹之内重信
連れあいの亡きおみなごが一輪車押しつつ道を上りてゆけり　宮元　司
ベランダにサンダル一足乾きおり検査入院終えて戻れば　石原百合子
目に見えて確か降りいる雨なれど乾ける土は音も吸いゆく　野村　益信
猪除けの棚を造らん芋の値の高低今はどうにでもよし　村上　義彦
酒呑みの夫残してくれたりし年金を持て世過ぎなしおり　大塚　洋子
地下足袋に露草踏めば柔らかし野良着の裾に風たわむれて　山下　学

一般作品

俳句

雛菓子をつまみ官女に見られおり　川添　行秋
恋猫の妻宅の夫は風天と　笹元　政美
さくら衣転勤の荷の出づる門　桐野　眞実

短歌

生きる事やる気なければ出来ぬもの気力有ならなしえる事よ　町田　末則
二年越し娘乍らのヘルパーが生き活き語る其の名もいき子　鶯出　成人
梅の枝に目白睦みて蜜を吸ふ孫を手招き冴ゆる花観る　中仮屋辰子